

令和6年5月13日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田 佳男 

視察・調査場 所	RCC文化センター
期 日	令和6年5月11日 ～ 令和6年5月11日
経 費	2600円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査目 的	不登校・ひきこもりケアセンター主催 「不登校の解決策が見つかる勉強会」
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	「神経発達症」が関連する不登校になる「きっかけ」 ・ ASD ADHD LD ・ その他 独特のこだわりや、感覚過敏があることで、学校生活に困難を感じやすい 発達特性は変わらないので、環境を工夫することが必要 不登校を長期化させないための対応策 ・ 本人の学習支援 ・ 家族の方の心のケア ・ 規則正しい生活 ・ 適度な運動 ・ 第三者との関わりを持つ 安全なコミュニケーション
効果・成果等	竹原市でも不登校の児童生徒の数は増加しており、解決策を研究するために参加した。不登校からひきこもり状態になるケースも多い。竹原市では、昨年「ひきこもり実態調査報告書」が作成されており、教育委員会や地域支え合い推進課に専門員を配置するなど支援の対策が進められている。家族の方の心情などで、竹原市内で相談できる窓口を見つけることが難しいケースも考えられるが、「わくサポ広島」には竹原から通っている子どもたちもいるとのことでした。今後も情報交換をしていきたい。

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

竹原市収受
竹第号
6.5.17
月 日
資料様式第3号

議長	副議長	局長	局長補佐	係長	局員
					

令和6年5月16日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名

今田佳男 

視察・調査場 所	地方議員研究会 博多
期 日	令和6年5月15日
経 費	15000円
参加者氏名	今田佳男
視察・調査目 的	黒瀬雄大講師 財政問題質問のポイント
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	わがまちの財政を知り、役所に指摘すべきポイント ・専門知識をもった職員の説明に対抗するには ・決算は事業とセットでないと分からない ・「一人いくら？」を確認する ・他と比べて、高いか安いを確認する ・なぜ高いか、事情を説明させる 人口減少に備える財政のポイント ・長期(中期)財政計画を出させましょう ・公共施設等総合管理計画を読もう ・将来の必要経費を確認しよう 財政危機に陥るパターン ・無謀な投資 ・繰出金の増加 ・実質単年度収支の悪化 ・基金の取り崩し
効果・成果等	予算、決算審査の参考にするために受講した。 予算を決めることができるのはあくまで議会であり、議員に必要なのは、細かい制度の理解ではなく、おかしいときに指摘できること、と言われて、日野市の事業別コスト計算書、たつの市の財政資料集を参考にした説明があり、大変参考になった。 竹原市では、庁舎移転後の跡地利用を進めるための長期財政計画が大変重要であり、今後も健全な財政運営がなされるよう確認していきたい。

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

竹原市収受

竹第号

6.5.27

年月日

資料様式第3号

議長	副議長	局長	局長補佐	係長	局長

令和6年5月27日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田 佳男

視察・調査場	天理市 教育総合センター
期日	令和6年5月24日 ~ 令和6年5月24日
経費	18900円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査目	子育て応援・相談センター ～ほっとステーション～
内容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	並河天理市長の政策 ・「人口減少社会適応都市」を宣言 ・みんなの学校プロジェクト 学校の時間帯を「学校教育」「放課後」「地域の多様な活動の場(夜間)」の3部に分ける。教員らは1部の教育の時間帯の業務に専念し、2・3部は、教育委員会が責任窓口となり、社会教育や交流を重視しながら地域の既存施設で行っていた活動を取り込んでいく。 ・子育て応援・相談センター「ほっとステーション」を開設 現場経験が豊富な校長OBや、心理士ら15人体制で、小中学校教員や保育士の大きな負担になっているとされる保護者からの相談や要望を一元的に受け付ける。教員らに時間や精神的な余裕をもってもらうことで、教育や保育の質を高める。
効果・成果等	天理市では、退職や休職する教職員があったため、アンケートを実施した結果、「日常業務で保護者対応に負担を感じている」との回答が多数あり、そのため専用の窓口を設置した。 並河市長の肝いりの事業ということで、市長が自ら説明されたが、校長や園所長の経験者などのスタッフが常駐しており、4月に開設されて今までの相談件数は130件とのこと。特にコロナ以降、不安を持っている保護者も多く、保護者に対して「誠意ある対応することを大切に」されていることがよくわかった。 文部科学省のモデル事業であり、今回の視察を参考にしながら、今後竹原市の実情にあった提案をしていきたい。

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

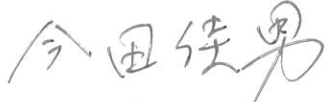
竹 原 市 収 受		
竹	第	号
6. 7. -4		
延滞期間	月	日
本館記号	保存年数	

資料様式第3号

市長	副議長	局長	局長補佐	係長	局長	員
						

令和6年7月 8 日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名  

視 察 ・ 調 査 場 所	全国市町村国際文化研究所
期 日	令和6年7月1日 ～ 令和6年7月3日
経 費	31770円
参加者氏名	今田佳男
視 察 ・ 調 査 目 的	令和6年度市町村議会議員研修 [3日間コース] 「社会保障・社会福祉」
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	・ 将来の社会保障の姿を考える ・ これからの子育て支援 ・ 少子化問題を考える ・ 福祉・介護サービスの人材確保と育成 ・ 生活困窮者の実態と支援策 ・ 高齢者介護と地域共生社会 ・ 意見交換
効果・成果 等	社会福祉、社会保障は理解が難しい。ひきこもり支援について、一般質問をするなど研究してきたので、今回の研修に参加した。竹原市も急激に少子高齢化が進んでおり、今までも対策を提案してきたが、従来のやり方では対応しきれていない。データを分析すると、以前から若い女性の転出が課題であると言われてきたが、少母化、少子化が進む一番の原因であり対策が必要である。 意見交換では同規模の市町の議員とグループとなり課題を話し合ったが、小規模な自治体こそ広域的な視点で対策を考えないと解決が難しい、ということでは意見が一致した。

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

令和6年7月31日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田佳男 

視察・調査 場 所	全国市町村国際文化研究所
期 日	令和6年7月29日 ～ 令和6年7月30日
経 費	27740円
参加者氏名	今田佳男
視察・調査 目 的	令和6年度第2回 市町村長等・議会議員特別セミナー
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	① 曖昧な弱者とその敵意～社会分析の新たな構造～ ② ともに生きる未来につなぐ みんなでつくる「健康しが2.0」 ・ひとりひとりを大切に ・多様性、包摂性、寛容性のある社会へ ③ 「労働供給制約社会」への処方箋 ・ワーキッシュアクト - 本業以外の活動で誰かの何かを結果的に助けている活動 ・今後の仕事に起こると考えている予測 「働き手は神様です」 ④ こどもたちの生きる力を育む ～「COLOMAGAプロジェクト」の活動の軌跡～ ・活動の特色 「伝え方」をプロのクリエイターが教える - 子どもたちが育つ様々なしかけ - 多世代、多様な主体が関われるポイントがある - この活動が広がれば、10年後20年後も地域は持続可能に
効果・成果 等	三日月滋賀県知事が基本姿勢としている「対話、共感、共創」「徹底した現場主義」を実践しておられることが良く伝わった。 「COLOMAGAプロジェクト」の活動は、伊豆市が2011年に実施した高校生へのアンケートで、高校生の6割が「将来は伊豆市に住みたくない」と回答しており、地域への愛着が薄いことが若年層の流出の大きな要因と考え、「デザイン力で地域を盛り上げたい」として活動が始まった。活動を継続することで子どもたちを通じて大人たちも地域の良さを再認識するようになった。竹原市でも若年層の流出は地域課題である。小、中学校では地域との交流する活動で、竹原に愛着を持つ子どもたちが増えているが、参考にして実践できることを検討したい。

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

竹原市 受 取 印
竹 第 号
6. 8. 19
宛 姓 前 置 月 日
身 証 記 号 保 存 年 限
資料様式第3号

議 長	副議長	局 長	局長補佐	係 長	局 員

令和8年8月19日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田佳男

視察・調査 場 所	地方議員研究会
期 日	令和6年8月7日 ～ 令和6年8月7日
経 費	30000円
参加者氏名	今田佳男
視察・調査 目 的	地方議員研究会 議員研修 森裕之講師 USB動画データで受講
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	公共施設特別講座 ・市町村の公共施設のうち、延床面積の割合が一番大きいのは学校 ・市町村では技術系職員が不足している ・一般に公共施設等が多ければ、それだけ住民生活の水準は量的・質的に向上するが、公共施設等が多いほど、維持管理費、修繕費、改修費、更新費が増加し、他の政策へ振り向ける一般財源等が減少する。 ・参考事例 飯田市 東近江市 都城市 学校統廃合と公共施設問題 ・学校統廃合は公共施設問題の本丸 ・公立学校をどうするかは自治体の判断 ・「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」 地域との関係の希薄化を防ぐ工夫 地域の拠点機能の継承 ・活用の用途が決まっていない廃校が増えている ・参考事例 瀬戸市にじの丘学園
効果・成果 等	令和4年に「竹原市立学校適正配置計画」が策定され現在統合再編が進められている。また、公共施設ゾーン再整備検討事業が提案され、調査特別委員会が設置された。 どちらも竹原市の将来を決定する非常に重要な事業であり、参考にするために今回の研修を受講した。参考となる他市の事例が紹介されたので、情報収集のために視察を検討する。 当初京都で受講する予定であったが、他の行事と重なったためUSB動画で受講した。

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

令和6年8月21日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名

今田佳男 

視察・調査場	箕面市役所
期 日	令和6年8月20日 ～ 令和6年8月20日
経 費	19500円
参加者氏名	今田佳男 蕎麦田俊夫
視察・調査目 的	LPガスを利用した学校体育館のエアコン設置 避難所の電気設備改修
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	平成25年度小・中学校教室エアコン設置 ・国の緊急経済対策を活用して普通教室等に設置 総事業費 641566千円 国補助金 155382千円 市債 296300千円 (地域の元気臨時交付金を適用) 実質的な市負担 189884千円 平成29年度小・中学校体育館エアコン設置 ・国の緊急防災・減災事業債を活用 総事業費 793000千円(市債) 交付税措置 555100千円(市債の7割交付税措置) 実質的な市負担 237900千円 翌年大阪府北部地震があったが、避難所として対応できた 平成22年度 ・小・中学校トイレリニューアルの一斉実施
効果・成果等	以前から避難所でもあるバンブー公園体育館にエアコンを設置してほしいという強い要望がある。箕面市では国の交付金などを活用し、LPガスを利用して学校の体育館にエアコンを設置されているので視察した。設置された体育館を見学させてもらったが、独自の方法で天井吊り型を設置されるなど工夫されていることがよく分かった。竹原市でも取り入れることが可能ではないと考えるので提案していきたい。 農業公社、子どもステップアップ調査、通学路危険箇所点検など今回の視察案件以外でも独自の取組をされているので、今後も情報交換をしていきたい。

令和6年9月2日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田佳男 

視察・調査 上 所	東広島芸術文化ホール
期 日	令和6年8月26日 ～ 令和6年8月26日
経 費	10000円
参加者氏名	今田佳男 堀越賢二 村上まゆ子
視察・調査 目 敵	東広島市・竹原市議員研修会 自治体財政の基礎 講師 森裕之(立命館大学)
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	地方議会の2つの役割 ・予算の決定 ・価値(大切なもの)の発展 自治体財政のルールはたった一つ:赤字にしない とにかく重要なのが「一般財源」 歳出の原則 「収入の範囲で最大の福祉を実現する」 これからの自治体財政のあり方 国による地方財政措置は今後きびしくなっていく
効果・成果 等	東広島市議会創生会が主催された研修会に参加した。財政の専門家の森講師が自治体財政についてわかりやすい説明され、基本から学習することができた。 竹原市の財政については、有形固定資産減価償却率に課題があり施設の更新が必要ではないか、との提言あった。 現在公共施設ゾーン再整備が検討されている。今回の研修を参考にして、議会、行政、住民、企業が協力しながら、持続可能な都市のマネジメントを進めていくよう提言していきたい。

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

令和6年10月9日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田佳男 

視察・調査 場 所	地方議員研究会 博多
期 日	令和6年10月8日
経 費	34340円
参加者氏名	今田佳男
視察・調査 目 的	川本達志講師 人口減少関連の質問のポイント
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	地方創生の総括に関する質問 ・10年間の人口動態を聞く ・地方創生の取組の成果と課題を聞く ・今後の地方創生の取組方向を聞く 若者、特に女性が働きやすく、暮らしやすい地域を作ることへの 覚悟 (人口問題は女性問題) 「人口ビジョン2100」 安定的で、成長力のある「8000万人国家」へ ・定常化戦略における論点 若者世代の「所得向上」と「雇用の改善」が必要 「共働き・共育て」の実現 多様な「ライフサイクル」が選択できる社会づくり ・強靱化戦略における論点 「人への投資」 わがまちの人口ビジョンに関する質問 ・人口ビジョンの策定の必要性について聞く ・持続可能な地域とするためにこの町に必要なものは何かを聞く ・政策や施策をつくる(予算をつくる)際の基本理念を聞く
効果・成果 等	竹原市は消滅可能性都市とされており、人口減少問題に早急に取り組まなければならないと考えて受講した。 人口戦略会議の提言である「人口ビジョン2100」では、人口減少のスピードを緩和させ、質的な強化を図って小さい人口規模でも多様性に富んだ成長力ある社会の構築を目指している。 今回の研修を機会にして、人口減少に不安を抱くだけでなく、誰も見たことのない社会を予測して、これからの竹原市のあるべき姿を提案できるように活動していきたい。

令和6年11月18日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名  

視察・調査 上 所	廿日市市
期 日	令和6年11月15日 ～ 令和6年11月15日
経 費	4520円
参加者氏名	今田佳男 道法知江
視察・調査 目 的	廿日市多世代活動交流センター フジタスクエア まるくる大野
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	廿日市市大野筏津地区公共施設再編整備事業の施設 市民センター 体育館 図書館 子育てリビング
効果・成果 等	公共施設ゾーン再整備の参考とするために視察し、施設の統括責任者に設備の説明を受けた。 2023年3月にオープンして、昨年度の入場者数は50万人で、今年度は前年比15%増加している。視察したのは金曜日の午後であったが、NPO法人が運営する子育て施設などには多くの利用者がおられ、事業が順調に進められていると感じた。 今回は施設の見学が目的であったが、今後民間を活用した事業手法について視察を検討したい。

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

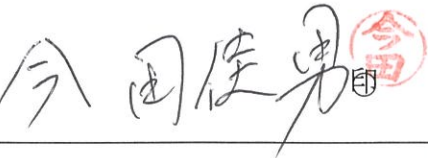
竹 原 市 収 受	
竹	第 号
- 7. 1. 22	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

資料様式第 3 号

議 長	副議長	局 長	係 長	局 員
				

令和 7 年 1 月 22 日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名  

視 察 ・ 調 査 場 所	全国市町村国際文化研究所
期 日	令和 7 年 1 月 2 0 日 ～ 令和 7 年 1 月 2 1 日
経 費	2 7 4 1 0 円
参加者氏名	今田佳男
視 察 ・ 調 査 目 的	令和 6 年度第 3 回 市町村長等・議会議員特別セミナー
内 容 (視察先の 現状, 竹原 市との比較 等)	① アート×福祉 ② 安心して認知症になれる社会を目指して ～一人ひとりのマイクロハピネスを みんなのウェルビーイングに～ ③ 誰もが誰かの応援者 ～「地域」で応援し合うために～ ④ 人と人、人と自然をつなぐ ～地域内での資金循環の仕組みから～
効果・成果 等	これまで一般質問などでひきこもり支援の重要性を言い続けてきた。今回は東近江圏域働き・暮らし応援センター Tekito (テキトー) 前所長の野々村光子講師の講義が含まれていたため受講した。多くの経験を話されたが、議員にとっては、「制度の穴に落ちている人がいるということを知っていること、そしてそれを言い続けることが大切と思う」「現場に行っていますか」と言われたことには共感した。また東近江三よし基金では「休眠預金等の活用」の事例が紹介された。今後研究して、視察を検討したい。

※ 実施後 1 ヶ月以内に報告する。

竹 原 市 収 受	
竹 第	号
- 7. 2 - 3	
処理期限	資料様式第3号
分類記号	保存年限

議 長	副議長	局 長	係 長	局 員
				

令和7年2月3日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名  

視察・調査 場 所	総社市役所 総社市社会福祉協議会
期 日	令和7年1月31日
経 費	3960円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査 目 的	ひきこもり支援について
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	総社市におけるひきこもり支援について ・「全国屈指の福祉文化先駆都市」を目指す枠組み 福祉王国プログラムを策定 令和6年度 目標「ひきこもりからの社会参加200人」を達成する ・ひきこもりの予防（義務教育の段階での取組） ① 派遣登校支援員による状況把握と分析、整理 ② 不登校状態にある生徒、保護者に卒業前に四者面談を実施 ・ひきこもり支援（中学卒業以降の社会からの孤立状態への支援） ① ひきこもり支援センター「ワンタッチ」解説 ② 常設居場所「ほっとタッチ」開設 ③ ひきこもり家族会「ほっとタッチの会」設立 ④ 2か所目の常設居場所 開設 令和5年度の事業費 1592万円 (このうち719万円を国庫補助により手当て見込み)
効果・成果 等	総社市への視察は今回2回目である。厚生労働省の資料でも紹介されており、全国ひきこもり支援基礎自治体サミットが開催されるなど先駆的な取組を実施されている。 ひきこもり支援についてはこれまで3回一般質問で取り上げた。竹原市でも民生委員による実態調査や啓発のための講演会が実施されているが、取組をより前進させるために視察研修した。今回説明を受けた、家族会の支援、県の保健所とも連携したケース検討会、サポーターの養成、を参考にして、地域と連携してひきこもり支援への理解を進めていきたい。

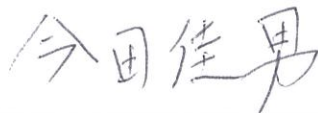
※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

竹 原 市 収 受	
竹	第 号
- 7. 2 - 6	
処理期限	月 日
資料様式第3号	保存年限

議 長	副議長	局 長	係 長	局 員
				

令和 7 年 2 月 6 日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名   

視 察 ・ 調 査 場 所	地方議員研究会 京都
期 日	令和 7 年 2 月 4 日
経 費	4 9 5 6 0 円
参加者氏名	今田佳男
視 察 ・ 調 査 目 的	森裕之講師 人口減少時代の自治体財政
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	財政破綻に向かう自治体財政①② 国と地方のせめぎ合い 人口減少を踏まえた地方財政の効率化 D X 化の推進、公共施設の統廃合 骨太の方針 2 0 2 4 個々の自治体だけでは持続可能性を確保できない地域も出現 する可能性がある 広域でのコンパクト化、地域経済の活性化、広域連携、自治 体 D X 等による地方行財政基盤の強化 新たな地域生活圏の形成 自治体・地域マネジメントの時代へ 行政も議会も、情報収集能力・学習能力・公民性などを総動 員して、地域のあり方を方向づけ、それに向けた自治体改革 を行わなければならない
効果・成果 等	森講師は、昨年東広島市議会と合同で財政の研修を行ったとき の講師であり、非常にわかりやすい講義であったので、人口減少 に関わって新しい情報が得られると考えて受講した。 財政制度審議会などの議論で、国の方向性は、D X 化の推進、 公共施設の統廃合、新たな地域生活圏の形成へと進んでおり、持 続可能となるためには情報を収集して対応しないといけない。 また、財政危機宣言を行った阪南市、堺市、京都市などの事例 紹介があり、それまでの収支不足、基金残高の推移の説明を受け、 議会の責任の重さを痛感した。

※ 実施後 1 ヶ月以内に報告する。